

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和14年度
市町村名 (市町村コード)	大津市 201
地域名 (地域内農業集落名)	平野 (平野)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	31.92 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	31.92 ha
② 田の面積	31.78 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.13 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	23.87 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.99 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	21.09 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	5.08 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

対象区域の農業者43名の年齢構成は、69歳以下が34%、70歳以上が66%である。10年後は、70歳以上が92%となる。作物は79%が稲作であり、その他、野菜、麦大豆である。圃場整備済みで、対象地域の荒廃状況については、離農者は概ね認定農業者と委託契約している。離農による放棄田は少ない。現状、認定農業者が対象地域の61%の面積を担っている。39%の面積が個人経営者であるが、10年後は認定農業者が64%を担うことになり、個人経営者は36%になる。なお、個人経営者も高齢化するため経営の維持は課題となる。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

上記、10年後の個人経営者の経営維持が課題となるので、予測は難しい。現在と同程度の稲作が継続されると良いが、離農者が増えると、認定農業者への依存度が高まる。地域の所得向上については、小規模農家は、実質的な利益は現状も将来も見込めず、経営的には困難である。米以外の作物への転換も同様で、初期投資が必要で、経営の軌道に載せることは、高齢化、後継者不足の現状では難しい。将来のあり方としては、資本力のある認定農業者に水稲作付けを中心に、麦、大豆、さつまいも等を栽培する経営方法に期待し、継続困難な小規模農家は認定農業者へのスムーズな移行が望ましいと考える。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
対象区域内の耕作者は現在20農家存在しているが、10年後は、10農家が離農し、7農家になる。3農家は未定である。現在、認定農業者に契約を希望しているのは3農家である。 平野町外の耕作者は現在7農家存在しているが、10年後は、4農家が離農し、3農家になる。離農4農家について意向を確認していく。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	61.5	%	将来の目標とする集積率
			64.6 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
地主の意向を反映して集約化する。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組	
担い手(認定農業者)と良好な関係を保ち、離農した農地について、地主に意向を確認して、随時、契約を促していく。	
(2) 農地中間管理機構の活用方法	
地域計画に沿って、農地中間管理機構を活用して担い手への農地集積を進める。	
(3) 基盤整備事業への取組	
対象地域の圃場整備事業は終わっている。	
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組	
現在の所、認定農業者(長谷工あんしんデリ)と、地元の農工房ひらのが主に農作業を受託されている。今後も安定した農業経営に期待したい。	
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
JAのドローンによる病害虫に対する農薬空中散布の委託は継続する。	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

✓	①鳥獣被害防止対策	②有機・減農薬・減肥料	③スマート農業	④畑地化・輸出等	⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等	⑦保全・管理等	⑧農業用施設	⑨耕畜連携等	⑩その他

【選択した上記の取組内容】

①鳥獣被害防止対策については今後も防護柵の補修点検をし、有害鳥獣用箱罠の設置を継続する。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 14 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	長谷工あんしんデリ	水稲野菜麦など	19.64 ha	ha	水稲野菜麦など	20.63 ha	ha		
計	1経営体		19.64 ha	0 ha		20.63 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
1	レーク滋賀農業協同組合	農薬空中散布、耕運、田植、収穫、乾燥、籾摺り	水稲
2	農工房ひらの	耕運、田植、収穫	水稲
3	長谷工あんしんデリ	耕運、田植、収穫、乾燥、籾摺り、草刈り	水稲
4	クサツパイオニアファーム	耕運、田植、収穫、乾燥、籾摺り、草刈り	水稲

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。